

令和4年度事業の 最終報告について

令和4年度事業の取組み

現状と課題の整理

- 高齢者における薬物療法の適正化を図るため、これまで、患者の療養環境ごと※の留意事項も含めた指針を整備するとともに、病院におけるポリファーマシー対策の導入を促進するための業務手順書等を取りまとめた。 (※)急性期の入院医療、回復期・慢性期の入院医療、外来・在宅医療等、介護施設等
- 作成した業務手順書等は、病院を対象としたものであるが、診療所等においても活用が期待されている。
- 病院内のみならず、地域においても、医師・薬剤師等の連携の下に、様々なポリファーマシー対策の取組みが進められつつある。
- 病院内の取組みと地域の施設(診療所、薬局、介護施設等)間の取組みは、ポリファーマシー対策の基本的な考え方や課題は類似しているが、質的に異なる部分も多く、地域に焦点を当てた取組みが求められている。



令和4年度は、モデル地域において実際にポリファーマシー対策に取り組み、地域での取組みにおける課題抽出等を行う。

【目的・内容】これまで検討会で作成した指針及び業務手順書等を地域で活用するに際し、不足する内容や課題等を明らかにする。また、課題を解決するための有効な取組み等があれば、今後の活用に向けてそれらの情報を整理する。

【実施対象】地域の医師会、薬剤師会等が連携してポリファーマシー対策に取り組む地域

※)地域の病院、診療所、薬局等が連携して取り組むものであること。

令和4年度事業の採択団体

①広島市薬剤師会

③神奈川県保険医協会

②富山県薬剤師会

④宝塚市薬剤師会

《スケジュール》

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
検討会	第13回	第14回 モデル医療機関 中間報告	第15回 モデル医療機関 最終報告 第16回 採択地域 中間報告	第17回 採択地域 最終報告
医療機関での効果検証		ツールの運用を通じた 効果検証・課題確認		
地域での効果検証			地域での取組みにおける課題抽出等	

最終報告の進め方

- ・各団体から取組状況の最終報告(約10分)
(9分経過したら予鈴を1回、
10分経過したら本鈴を2回鳴らして合図)



× 4団体

意見交換(5分)

- ・4団体全体を通したまとめ(20分)



意見交換のポイント

- 本事業での取組みを通して見えた業務手順書等の課題とその解決策
- 業務手順書等の見直しを見据えた整理すべき内容等の確認

これまでの取組み

《参考》第16回高齢者医薬品適正
使用検討会 資料より抜粋

これまでの取組み

医療機関で活用できる、より実践的なモデルや手順書といったツールが必要ではないか

R1年度: アンケート・好事例施設調査

- 100床以上の医療機関に対する実態調査
- 好事例施設の取り組み状況を調査
⇒現状の把握と課題の抽出

R2年度: スタートアップツールの作成

- ポリファーマシー対策を行う実際的なポイント
- 業務手順書のモックアップ 等
⇒R1年度の課題を解決するツールを作成

病院における高齢者のポリ
ファーマシー対策の始め方と進め方

R3年度: モデル医療機関での実運用調査

- R2年度に作成したツールを医療機関で運用し、実用性と課題を確認
- 実施機関は公募により3医療機関を採択
- モデル医療機関での取組結果の学会発表等を通じた、ツールの周知

有効性	<ul style="list-style-type: none">● ポリファーマシー業務を開始するにあたり、作業工程の手順がわかりやすく記載されている。● それぞれの施設状況に合わせた「始め方」が丁寧に記載されており、その中でできることから始めることができる。● 様式事例集が充実しているため資料作成の参考になる。● 様式事例集に具体例が示されており、運営要領や薬剤管理サマリーのひな型作成の際に非常に参考になった。● 施設ごとの異なるニーズに対応できる様式である（細かい項目設定）● 当初、当施設は「進め方」の部分を中心に実運用調査予定であったが、「始め方」の部分でも参考になる部分が多く、全体を通して自施設での取り組みを見直すために有用である。● 対策を始める前の現状把握と対策後の評価方法が具体的に記載されており、周囲への啓発に有用である。● ポリファーマシー業務を運用することで、実際に処方の見直しにつなげることができた。結果的に、ポリファーマシーに関連する診療報酬の算定取得にもつながった。
課題	<ul style="list-style-type: none">● <u>病院の医師と地域の医師との連携体制の構築が難しい。</u>● 患者が様々な地域から来院されている場合、かかりつけ医やかかりつけ薬局も多様であり、<u>地域連携の実現が難しい。</u>● <u>地域の医師会に対するアプローチのみでは開業医各々のポリファーマシー対策に対する意識の差が把握しづらい。</u>● 多職種でのポリファーマシー対策チーム設置が難しい場合の段階的な取り組み方があるとよい。● ポリファーマシーの啓発活動を行う際に活用できる、医療スタッフ向けの資材の紹介があるとよい。